高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
タイプＡ　取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代　表　校　名 （ 連携大学 名 ）	九州大学
事　　業　　名	九州大学高度医療人材養成拠点の形成
事　業　責　任　者	九州大学病院長　中村　雅史

事　業　の　概　要

九州大学の理念等に基づき、我が国の医学・医療の多彩な分野において指導的な役割を果たし、アジアをはじめ広く世界で活躍する医師・医学研究のリーダーの養成を積極的に推進する。その機能強化につなげるため、本事業における臨床研究面では、若手研究者による横断的な組織を設立し、診療科の枠を超えた交流を促進し、革新的なアイデアの創出を目指す。また、このプラットフォームの中心となる組織を米国型の臨床研究支援組織にするため、優秀な臨床研究支援人材の登用かつ持続可能とする改革を行う。次に、教育面では、診療参加型臨床実習充実のため、医行為経験が円滑に進む体制の整備および医学教育学上効果が確立している Near Peer Learning を卒前卒後シームレスに導入し、また医行為同意書取得の簡素化などの実現を目指しながらも、教員の負担軽減も可能にするモデル組織の構築実現を目指す。

推進委員会からの主なコメント　　○：優れた点等、●：改善を要する点等

○分散型臨床試験による医師主導治験の推進、アジア地域ネットワークを介して国際共同研究を計画している。
○臨床研究中核病院として、医師主導治験や特定臨床研究の基盤は人材も含めて整備されているといえる。また久山町研究もあるので観察研究についても十分な業績がある。
○リサーチマインドを持った若手研究者の卒後支援に重点を置きり、基礎研究の実績を活用した臨床研究の活性化、30 代医師による「医師主導治験を目指す若手医師の会」を設置する。
○診療ガイドラインに引用される介入試験３件以上、承認申請の審査資料となる医師主導治験５件以上、悉皆性の高いレジストリー研究 10 件以上を達成することを目指している。
○卒前卒後のシームレスな屋根瓦教育体制の構築、専攻医、研修医、医学生を対象とした教育スキルトレーニングオンラインプログラムの実施。
○卒前卒後のシームレスな屋根瓦教育体制の構築、同意書取得・学修記録の DX 化、シミュレーション教育の充実、地域医療実習の充実、教育実績評価の実施と可視化といった課題は明確に把握されている。
○九州で唯一の橋渡し研究支援機関として、九州・山口・沖縄を中心に、日本の人口 12%をカバーし、生活習慣病、難病希少疾患、健康医療 DX 部門が設置されている。
○多数の協力校を取りまとめており、近隣大学との連携が上手く取れている。
○医師の働き方改革への対応として、特定行為研修の履修を一層促進し、多職種連携によるタスクシフト、遠隔診療システムの導入、タブレットによる患者説明等の活用を促進する。
○九州大学病院 ARO 次世代医療センターと医学教育学講座を柱に運営体制が構築される。
○大学の 100%出資である九大 OIP 株式会社から共同研究費を中心とした外部資金の獲得を目指す。
○スケジュールが詳細に計画されている。
●様々な基盤を活用し本事業で達成しようとする臨床研究が推進されることを期待したい。
●現在の人材育成を含む中核病院としての運営に加え、本事業が何を目的として予算が使用されるかが明確ではない。
●医師主導治験を目指す医師の雇用資金やエフォートにも配慮した取組が求められる。

●基礎系の大学院で研鑽を積むことは研究力の習得に重要であるが、その際の給与や診療について配慮することが求められる。
●研究人材を育成するためには、医師を多くの時間研究に専任させる必要もあると考えられるため、研究時間をどのように確保するか具体的に示すことが求められる。
●臨床研究の推進におけるアウトプット・アウトカムが抽象的な表現にとどまっているため、定量的な設定も検討することが望ましい。
●若手で研究に専念したい医師がいた場合のサポート体制や、診療に対するケアについても説明が求められる。